依頼時における女性の笑顔表出の効果の検討

宮武沙苗¹ 松下千紘² 樋口匡貴³

(上智大学大学院総合人間科学研究科¹ 株式会社マクロミル² 上智大学総合人間科学部³)

Key words: smile, gender differences, trust, cooperation

目 的

笑顔はポジティブな感情の表出である (Frank & Ekman, 1996) とともに, 対人関係において協力獲得のシグナルとしての効果を持つと考えられる (Scharlemann, Eckel, Kacelnik, & Wilson, 2001)。笑顔がもたらす効果について, Scharlemann, et al. (2001) は, 信頼ゲームにおいて人は笑顔の相手をより信頼し, 提供額が多くなることを示した。

しかし大藺・森本・中嶋・小宮・渡部・吉川 (2010) の研究では, 日本においては女性の場合にのみ, 笑顔の方が真顔より信頼され, 男性ではそのような傾向は見られないことが示された。日本では男性は女性に比べ笑顔の表出頻度が少ないため, 男性の笑顔は女性の笑顔より不自然に見られやすく, 信頼性の判断に結びつきにくいと考えられている (大藺他, 2010)。しかし大藺他 (2010) の研究では, 笑顔の送り手の性別にのみ焦点を当てており, 笑顔の受け手が同性か異性かの検討はされていない。

そこで本研究は, 笑顔の受け手の性別に着目し, 依頼時の女性の笑顔表出が受け手の性別によりどのように依頼承諾に影響を与えるか検討する。また印象評価に影響を持つ身体的魅力 (Kleck & Rubenstein, 1975) も考慮に入れ検討する。

方 法

実験参加者: 大学生 171 名 (男性 44 名, 女性 127 名) (平均年齢 20.31 歳, $SD = 1.51$)

実験計画と手続き: 表情 (笑顔/真顔) $\times$ 身体的魅力 (高/低) $\times$ 性別 (男性/女性) を独立変数, 協力への意欲度および協力時間を従属変数とする $2 \times 2 \times 2$ の参加者間実験計画。冊子を用い集団で実施した。刺激には笑顔/真顔 $\times$ 身体的魅力高/低の計4枚の女性の写真を用いた。冊子には4つの表情のうちいずれかの写真を呈示した。その上で, 写真の女性から大学のゼミで行っている研究のアンケートの回答に10–15分協力して欲しいと話しかけられた, というシナリオを呈示し, 写真の女性への協力意欲度と協力可能時間を尋ねた。

結 果

協力への意欲度を従属変数, 表情 (笑顔/真顔), 身体的魅力 (高/低), 性別 (男性/女性) を独立変数とする分散分析を行ったところ, 表情の主効果 ($F(1, 155) = 4.82, p = .030, \eta^2 = .020$), 身体的魅力低条件における表情の単純主効果 ($F(1, 155) = 6.34, p = .013, d = 0.62$), 真顔条件における魅力の単純主効果 ($F(1, 155) = 7.15, p = .008, d = 0.69$), 男性条件における表情の単純主効果 ($F(1, 155) = 5.32, p = .022, d = 0.60$), 真顔条件で女性の場合の身体的魅力の単純主効果 ($F(1, 155) = 5.27, p = .023, d = 0.71$) が有意であった。

次に協力時間を従属変数, 表情 (笑顔/真顔), 身体的魅力度 (高/低), 性別 (男性/女性) を独立変数とする分散分析を行ったところ, 男性条件における表情の単純主効果 ($F(1, 155) = 3.68, p = .057, d = 0.52$) が有意傾向で, 身体的魅力高条件で男性の場合の表情の単純主効果 ($F(1, 155) = 5.56, p = .020, d = 1.03$) が有意であった。

図1 各群における協力への意欲度の平均値 (点)。(エラーバーは標準誤差)

図2 各群における協力時間の平均値 (分)。(エラーバーは標準誤差)

考 察

本研究の結果から, 笑顔の方が真顔よりも依頼の受け手の協力への意欲度が高まることが示された。また, 身体的魅力低条件において, 笑顔の方が真顔よりも協力への意欲度が高まることが示されたが, 身体的魅力高条件においてはそのような傾向は見られなかった。身体的魅力高条件においては身体的魅力の高さが対人評価に影響するため, 表情の効果が大きく現れなかったと考えられる。

また依頼の受け手が男性の場合は, 笑顔の方が真顔よりも協力への意欲度が高まり, さらに身体的魅力が高い場合にその効果は顕著で, すべての条件の中で一番協力時間が長くなった。この結果は笑顔の効果に加え, Kleck & Rubenstein (1975) による身体的魅力が対人評価に与える影響の知見を裏付けるものと考えられる。

一方受け手が女性の場合, 協力への意欲度において真顔条件で身体的魅力の単純主効果が見られ, 協力時間が一番長かったのは笑顔・身体的魅力低条件であった。今後, 援助依頼場面において笑顔表出が特に女性同士の場合にどのようなメカニズムで働くか, さらに研究が望まれる。

(Sanae MIYATAKE, Chihiro, MATSUSHITA, & Masataka HIGUCHI)